

平成 25 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立皆生養護学校

学校長 松 本 剛 一

評 価 日	平成 26 年 2 月 20 日 (木)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 【資料】・平成 25 年度学校自己評価表 ※各学部評価 ※各分掌評価 ・保護者アンケート後期 (回収率 約 92%) ・児童・生徒評価 ●一人一人に視点をあてた学習指導の充実 ・重度重複の子どもたちが一人で過ごせるようになるために学校教育で力をつけてほしい。 ●18 歳の自立を見据えた進路指導の充実 ・教員の実習体験研修を取り入れ、働くことの厳しさや支援の在り方について学ぶ必要がある。 ・現場実習と現実のギャップを教員が知ることが必要。保護者や卒業生の話を聞く機会は生徒だけでなく、保護者や教員も聞くとよい。離職したケースや働き続けている事例についても知らせてほしい。 ・現場実習の意義や目的を教員が共通理解し、巡回指導のあり方や実習内容などを吟味するとよい。生徒が自分で考えて行動したり、困ったりすることも大切な学習である。 ●ニーズに対応できる専門性の向上 ・研修やチェックシートは全ての障がいに関通することと、肢体不自由に関することの両方の専門性が必要である。 ●センター的機能の推進 ・校外では教員一人一人がセンター的機能を発揮しなければならない。情報提供を待つのではなく、自らが学ばなければならない。 ●社会に繋ぐ活動の推進 ・さまざまな IT 機器が導入されているが、情報の分析		⇒興味関心や体験を広げる学習、五感に働きかける学習の工夫を進める。 ⇒進路指導については、たくさんさんの御提言をいただいた。これまでの取り組みに改善を加え、卒業後の生活につながるよう進める。教員の研修や保護者への情報提供も課題を明確にし、一つ一つ解決するように取り組んでいく。 ⇒バランスやニーズを考慮して取り組んでいく。 ⇒教員の学びを育てるよう情報提供の仕方を検討する。 ⇒機器を使うことが目的ではないことを念頭において研修

方法や端末の使い方や活かし方が不十分である。	に取り組む。
(2)説明・公表について 特になし	○学校自己評価、保護者アンケート結果、第2回学校関係者委員会報告は3月にホームページで公開する。保護者アンケート結果は、家庭配布をする。
2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について おおむね目標を達成している。詳細は評価表を参照	⇒明確な目標設定に努める。
3. 取組改善のための提言 ・取り組むことが明確になっている分掌は評価が高いが、それが曖昧なところは評価が低い。取り組む目標のわかりやすさが重要である。 ・保護者の世代の違いや子どもたちの学部や年齢を考慮したアンケートにしないと、ニーズや意見を集めにくい。また、保護者の考え方を変えようとするのではなく、どうしたら参加してもらえるかを工夫する。 ・参観日は現在の回数でよい。保護者がもっと自分の子に興味を持つような働きかけがほしい。また、生活年齢にあった接し方を共通理解してほしい。 ・総合療育センターとの連携で、個々に必要な支援機器（トイレの立位台など）を学習に使わせてもらってほしい。 ・医療的なケアの必要な生徒がスムーズに卒業後の生活に入れるように移行支援会議の回数などを考えてほしい。また、福祉セミナーなどが開催されてもなんとかするという保護者があるので、学校と協力して取り組むようになってほしい。	⇒保護者のニーズや意見、関心に応えられるように、保護者の世代・学部などを考慮して取り組む。 ⇒参観日の曜日については、平成27年度以降の実現に向けてセンタヘーと協議する。 ⇒保護者、センターと連携し、検討する。 ⇒進路先が決定してから開催するので回数を増やすのは難しいが、検討する。